

自分で考えることの楽しさ・大切さ

校長 伊勢 明子

社会の状況と同様に、ぽつぽつとコロナやインフルエンザの罹患が出ています。しかし、閉鎖という事態には至っていません。特に子どもたちに、インフルエンザは、免疫がない状況があり、予防接種もまだ始まっていないことが多いので注意していきたいと思います。

さて、学校では、学期に1回の先生たちの授業を1時間観察し、評価したり、よりよい授業を目指すために助言したりする時期を迎えています。高井戸小では、この授業観察を校内の先生たちに公開し、授業を見合ってよりよい授業を学び、研修する場としています。

先生たちの授業観察でもありますが、私には45分教室に居て学級の状況や子どもたちの授業に取り組む様子を知る大切な時間となっています。そこで子どもたちが、目を輝かせ、小躍りするくらいに夢中になって学ぶ瞬間に出会うことがあります。

9月20日(水)に、6年生の算数の授業で「円の面積」の授業がありました。

「半径×半径×円周率」の公式を用い、半径の数値が提示され円の面積を求めるものでは、全くありません。正面のスクリーンには、右欄に載せた学習のめあてと指針が映し出されていました。

円の面積(円周率)を、自分の力で、最適解を求めよう。

〈選択〉自分なりの納得解、最適解まで詰めていく

- ア 円の面積の公式は、なぜ円周率をかけるのか
- イ 円の面積は、どの範囲になるのだろうか
- ウ 円周率は、どの範囲になるのだろうか
- エ 正多角形を用いた計算に挑戦する
- オ 円の等積変形から、解に迫ることはできないか

アでは、円を細い扇形にし、互いに組み合わせて長方形にし、半径を縦に見立て、弧(円周の半分)を横に見立て面積にするので円周率が必要。ウでは、正36角形を用い、図形の周りの長さから、円周の近似値を測定することで、円周率を3.12まで検証。エでは、円を正方形の内接円とし、余計な部分を差し引くことで、面積の近似値を出す。オでは、円を平行四辺形として変形して検証。特にエは、一人では、効率がよくなく、気の合う仲間と作戦を立て作業を分担し、小躍りするくらい楽しそうに行っていました。ただ、群れるのではなく、必要性からの協同がありました。この後、ロイロノートに表されたそれぞれの考えを見合い、よさを協議、共有する時間がありました。単に答えを出すことが目的でなく、考えることの楽しさ・大切さがあふれていました。これが今、求められる重要な学びです。この先、広げていきたいと考えます。

10月の生活目標 『 相手の顔を見てあいさつしよう 』

生活指導部

毎朝、子どもたちの挨拶がたくさん聞こえてきます。6月号にも書きましたが、挨拶をすると「今日も元気に頑張ろう」という力が湧いてきます。そんな挨拶が上手になってきた高井戸小学校の子どもたちには、挨拶レベルを上げてもらいたいと思います。

そこで、今月は「相手の顔を見てあいさつできること」を意識してみましょう。自信が無かったり恥ずかしい気持ちがあっても心がけは同じです。顔をそらしたまま挨拶をすると、挨拶の力が半減してしまいます。挨拶のしぐさとして、体にしみ込ませられるよう意識しておきましょう。めざせ「あいさつホワイト」です。

